

▶ 宮崎県延岡市

歴史を継承し未来に向けて 可能性を創造する博物館



地域に寄り添い、街とともに考える、
コミュニケーション誌

INDEX

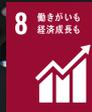
- 01 融資がつむぐまちづくり
- 05 地域のために がんばる公営競技
- 07 利用してみよう! 地方支援業務
- 11 みんな気になる、お金のこと
- 13 わたしのシゴト わたしのジモト
- 14 機構からのお知らせ
- 15 私たちもJFM債買っています!!
- 15 編集後記



JFMの貸付事業

JFMでは、長期かつ低利な資金を地方公共団体に融資することで、地方公共団体の財政の健全な運営及び住民福祉の増進に貢献しています。

詳細はp.03



延岡城・内藤記念博物館 概要 所在地:宮崎県延岡市天神小路255-2 / 開館:令和4年9月 / 敷地面積:12,171.07㎡ / 構造:本棟鉄筋コンクリート造2階建

NOBEOKA CASTLE・NAITO MEMORIAL MUSEUM

延岡城・内藤記念博物館

宮崎県北部の中心都市である延岡市。
工場が集積する「ものづくりのまち」であるとともに、
城下町としての情緒と、海や山の自然を有しています。
延岡城・内藤記念博物館は、
藩主であった内藤家の邸宅跡に建てられました。
延岡市の歴史、魅力を存分に堪能できる博物館です。



NOBEOKA CASTLE・NAITO MEMORIAL MUSEUM



1 内藤家旧邸東門＊長く伸びる階段の先にある東門。第二次世界大戦の戦火を免れたため、内藤家の邸宅であった頃の姿のまま受け継がれています。



2 エントランスホール＊延岡市産材であるヒノキやスギに囲まれたホール。床には延岡市全域を見ることができ1/8,500の衛星写真が貼られています。



3 平常展示室＊7つのテーマごとに展示を行っています。「歴代藩主の治世と人々の暮らし」コーナーには、原寸大の「延岡城下図屏風」の壁面展示があります。



4 能狂言面＊江戸時代に延岡で行われていた「神事能」で使われてきたとされる能狂言面群。合計72点が収蔵されています。



5 体験展示室＊古墳時代中頃(4世紀末)の竪穴住居など、当時の生活の様子や、時代による暮らしの変化などを体感することができる展示室です。



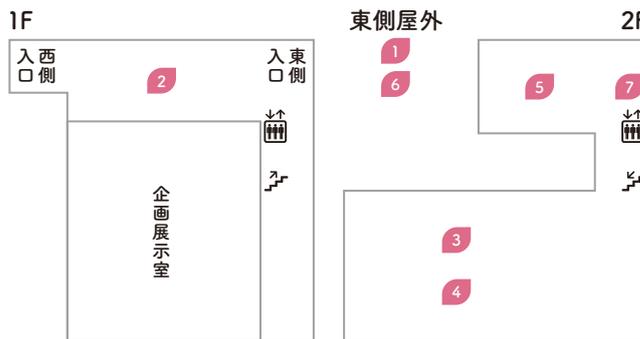
6 日本庭園＊内藤家邸宅時代の面影を残す格式ある庭園には、さまざまな屋外展示物も配置されています。七五三の撮影などに利用する市民も多くいます。



7 展望ロビー＊城山公園の通称「千人殺しの石垣」など延岡城の本城部分や、日本一の高さを誇る弘法大師像などを展望できる空間です。

FLOOR GUIDE

東門をくぐった先に構えるのは、2階建ての本館。1階には能の映像などを鑑賞できる情報ラウンジ、国内外の優れた美術作品や貴重な史料の展示が行われる企画展示室などがあります。2階は体験展示室と平常展示室で構成されており、延岡の歴史を楽しみながら学べる展示を行っています。



3つの展示室を軸とした歴史民俗博物館

延岡城・西之丸跡地に建てられた延岡城・内藤記念博物館。旧延岡藩主・内藤家の邸宅を一般公開した内藤記念館の歴史を受け継ぐ、歴史民俗博物館です。

「延岡の歴史を学び継承し、未来を創造する拠点」をコンセプトに整備が進められてきた博物館には、3つの展示室が設けられています。1つ目は、旧石器時代から近現代までの時代を7テーマに分類し、延岡に関わる歴史・考古・民俗・美術に関する展示を行う平常展示室。2つ目は、古墳時代中期の竪穴住居をはじめ、江戸時代後期の古民家「静思庵」の一部や、宮崎県内初の鉄筋コンクリート造の集合住宅「薫風荘」の部屋の様子を原寸大で再現した展示を通じて、当時の暮らしを体感できる体験展示室。さらには、延岡の歴史や文化に関するテーマや、国内外の美術作品の展示などの企画展・特別展を開催する企画展示室があり、さまざまな角度から延岡の歴史や文化について学ぶことができます。

旧記念館から引き継いだ豊富な資料や、固定概念にとらわれない多彩な企画展などを通じて、延岡の魅力を発信することができる博物館が誕生しました。

博物館フェスティバル



子どもたちが気軽に博物館に来館できるよう、延岡市に関するクイズラリーや展示物をキャラクター化した塗り絵などを楽しめる、博物館フェスティバルなどを定期的で開催しています。

歴史を継承し未来に向けて可能性を創造する博物館

内藤記念館の歴史を受け継ぎ、令和4年9月に開館した延岡城・内藤記念博物館。

延岡市役所 歴史・文化都市推進課の増田 豪さんに、博物館のコンセプトや今後の展望などを伺いました。



▶ 延岡城・内藤記念博物館ができるまで



歴史・文化都市推進課
増田 豪 係長

≡ 立地の歴史を継承した新しい博物館が誕生

旧藩主内藤家から数地や邸宅が延岡市に寄付されたことにはじまる内藤記念館。当時の邸宅は戦災により焼失しましたが、結婚式の式場として利用できる会議室や講堂、郷土資料の展示室などを備えた市民会館として、昭和38年に新たな内藤記念館が建設されました。

この内藤記念館が担ってきた役割を継承すると共に、博物館としての機能をより充実させたのが、今回新たに建設した延岡城・内藤記念博物館になります。建設にあたってはSDGsを意識し、収蔵資料を適切に保存するとともに活用することのできる、「用・強・美」を兼ね備えた施設となるよう整備を進めました。また、憩いの場として市民が気軽に訪れ、利用することのできる美しい庭園や、多様な文化活動や各種イベントなどを行うことのできる和室棟も設けています。

≡ 博物館の枠を超えた楽しみ方を提案

建て替え資金には、JFMの「地域活性化事業債」を財源として活用しました。長年地方公共団体に融資しており信頼性が高いことに加え、低金利かつ長期的に利用できることが理由です。同年には、文化施設「野口遵記念館」もJFMの融資を活用して建設しました。

開館から1年を過ぎましたが、企画展としてピカソやダリなどの名画を鑑賞できる美術展や、アーティスト・藤井フミヤさんの作品展示会などを開催し、市内外から多くの方に来場いただきました。今後も博物館の枠を超えて楽しんでもらえるよう、新しい可能性を提案する施設づくりを行っていきます。

STAFF ▶ VOICE



グッドスタッフ/
K・Pクリエイションズ
共同事業体
河野 柚 副責任者

延岡城・内藤記念博物館の指定管理者として、ミュージアムガイドや博物館情報誌「NOBEHAKU NEWS」の編集、ホームページやSNSなどの運営を行っています。市民の皆様には、開館直後から「何度も来たい」「次の企画展示が楽しみ」と、好評をいただいています。故郷の歴史を学び、自らのルーツを知るきっかけをつくっていける施設を目指していきたいと思っています。

本件で活用いただいた制度

地域活性化事業

地域の経済循環の創造に資する事業及び活力ある社会経済を維持するための拠点である連携中枢都市圏構想の推進に資する事業等、地域の活性化に向けた基盤整備事業を対象として貸付けを行います。

融資活用事例一覧はこちら



JFMスタッフ Message

延岡城・内藤記念博物館建設にあたり、ご活用いただいた地域活性化事業につきましては、令和4年度は、JFMから全国の地方公共団体に対し、総額125億円の貸付けを行いました。JFMでは、電子申請・通知システムによる借入申込事務のオンライン化により、効率化に取り組んでいます。借入事務にあたり、ご不明な点などありましたら、お気軽に融資部各都道府県域担当までご相談ください。よろしく願いいたします。



融資部融資管理課 宮崎県担当
西 康平

宮崎県延岡市の まちづくり



[人口]

113,182人

(2023年12月現在)



[世帯数]

51,243世帯



[面積]

868.02 km²



延岡市ホームページ



市民一人ひとりが主役になれる まちづくりを推進しています。

延岡市では、「市民がまんなか～市民力・地域力・都市力が躍動するまちのべおか」を目指すべき都市像として掲げ、

- ①延岡の特色を活かした交流連携のまちづくり
- ②未来を切り拓く活力ある産業づくり
- ③安心・安全な暮らしを支える地域づくり
- ④一人ひとりを大切に育む人づくり
- ⑤ぬくもりと躍動感が感じられる都市環境づくり
- ⑥多様な人材が参画する市民が主役のまちづくり

を基本目標としました。

「輝く未来へ あなたが主役 新延岡物語」をキャッチフレーズに、「一人ひとりが主役」のまちづくりを進めています。

行政 Pick Up! 注目の行政事業を紹介します。

◎延岡子ども未来創造機構運営事業

令和4年3月、延岡市は学校・家庭・地域に次ぐ第4の存在として「一般社団法人延岡子ども未来創造機構」を設立し、「遊びと学び」「共育」「体験」の3つを軸に、STEAM教育など多様な学びの機会を大学や地域と共創しています。子どもたち一人ひとりが本来持つ創造性やワクワクする感覚を輝かし、将来どの分野に進んでも自分らしく活躍できる「生きる力」を育てていきます。



新聞紙を使った立体構造体づくり

◎新たな救急搬送体制づくり事業

延岡市には市街地だけでなく離島・山間部などアクセスしづらい区域も属しており、救命救急医療体制の強化が課題となっています。これを解決するため、新技術「空飛ぶクルマ」の医療・防災分野での活用を目指し、プロジェクトを開始。医師や患者、救援物資等の搬送について調査・検討を行いながら、令和9年度の導入を目指し、取組を進めていきます。



空飛ぶクルマ導入イメージ

進めています! 業務効率化

行政手続アプリ「のべおかポータル」 令和4年度から、市の行政手続の入口となる「のべおかポータル」アプリの運用を開始しました。各種行政手続のオンライン申請をはじめ、令和5年度からは子ども医療費助成制度における受給資格者証のデジタル化など、機能拡充を進めています。また、庁内業務の効率化に向けてAI・RPA等を積極的に活用しています。

パブリックコメント条例による市民目線改革 延岡市では、「市民目線改革」として、県内初となる「延岡市政策等の形成過程における市民等参加条例(パブリックコメント条例)」を令和3年度より施行しています。この条例に基づき、市民生活に影響の大きい市の基本構想や政策等の策定、各種計画、大規模事業などについて市民の皆様の意見を募集し、いただいた意見に対する市の考え方を公表。事業案にも最大限反映しています。



延岡市 財政課の皆さん



城をモチーフとしたデザインの市庁舎。延岡市の伝統工芸品「のぼりざる」が出迎えます。

